

丘珠空港の滑走路延長 2030年へ前だおし 市民の声を反映させることが必要

7月31日 総合交通調査特別委員会 太田秀子委員

札幌市は、昨年11月に丘珠空港の将来像策定後、12月と今年2月にその実現に向けて、国土交通省には滑走路延長を1800m程度とするための300m程度の滑走路延伸や空港運用活動の拡大等を。防衛省には増設業務および管制業務に係る体制強化や運航便数の増加に係る自衛隊の運用との調整等について要望を行いました。このほど市は10年ほどかけて整備するとしていた滑走路延長を、2030年に前倒しする方向を市議会で説明しました。

太田市議はビジネスジェット、騒音、アクセス、空港ターミナルビルについて質問。市が、1日70便程度としている将来像の便数が上下することもありうると答弁したことで、同市議は運行時間の朝と夜の拡大についても触れ、便数が増えて空路が広がると騒音の聞こえる範囲も広がると指摘しました。

国に要望を出す前に市民の意見を聞くべきだと迫り、「市民の皆さんには、夏以降にアンケートを取る計画だと聞いている。時系列で言うと、8月以降国に要望を出し、2030年に向かって延伸前にも取り組んでいく、(あまりに早急すぎるという)そういう印象がある」、「様々な情報を提供していくと地域住民の要望をよく掴んで検討に生かすことが大事。2030年にこだわらないで住民の意見をよく聞いて、それを反映していくと、そこにこだわっていただきたい」と強く求めました。

滑走路延長で軍事利用拡大の懸念不安に応えよ

7月31日 総合交通調査特別委員会 長屋いずみ委員

丘珠空港は敷地面積の約9割が防衛省管轄の、自衛隊との共用空港であり、滑走路延伸によって軍事利用が拡大するのではないかと懸念から長屋市議が質問しました。

長屋市議は「空港の機能強化が進むことで軍事利用に対する懸念が増す中、行政としても自衛隊関連も含めて情報提供を行う必要があるがいかがか」と質問。市の担当者は「これまでと同様に、札幌市の関係部局から北海道防衛局を通じて情報収集および提供に努めていく考え」と延長に関連して取り組みを変えることはしないと答弁。次に同市議は「今後、市民意見を聴取する際には、軍事利用の拡大という懸念もしっかりとくみ取れるよう取り組むべきと考えるが、いかがか」と質問。市の担当者は「丘珠空港の将来像が、自衛隊等の利用拡大を想定したものではなく、あくまで民間航空機の活用を促すものであることをしっかり説明し、理解していただけるよう丁寧に取り組んでまいります」と答弁しました。

最後に長屋市議は2022年の訓練でオスプレイが北区の上空45mを飛行していたとの情報をもとに、国会で日米合同委員会合意に違反すると取り上げられたことを示し、「丘珠空港は通常の空港ではなく、自衛隊との共用空港。滑走路延伸によって、自衛隊や米軍の利用も変わる可能性は否定できない。市民の懸念や不安なども含めた意見を把握し、適宜、必要な情報提供を行うように」と強く求めました。